



農林水産省 都市農村共生・対流総合対策交付金

一般社団法人 移住・交流推進機構
農山漁村活性化支援人材バンク 共催
地方創生セミナー

地方創生に向けて「観光・DMO」、「移住・定住」、「農産物加工・6次産業化」等へのヒントが詰まったセミナーです。

第一部では、一般社団法人移住交流推進機構(JOIN)で実施した「『農』をベースとした移住・定住」に関する調査の報告や、地方創生における農山漁村地域の現状と課題の検証、そして「農」資源で移住就農者の呼び込みと定着に成功している地域の事例や、移住就農者の活動紹介を行います。

第二部では、「農山漁村活性化支援人材バンク」に登録されている専門家7名により、観光、DMO、移住交流、農産物加工・6次産業化等に関する講演会を開催いたします。講演会と並行して直接専門家に相談をしていただくスペースもご用意していますので、専門家との対話を通して地域が抱えている課題や、これからの地域活性化の取組みについて、解決していただく機会としてもご利用いただけます。

地方創生、地域活性化のヒントとなるお話が直接聞ける機会となりますのでぜひご参加ください。

日時

2016年2月9日(火)
第1部 13:00～14:30
第2部 14:45～18:00

会場

TKP市ヶ谷カンファレンスセンター
東京都新宿区市谷八幡町8番地

参加費

無料

※懇親会にご参加の場合は4,000円程度(当日受付にて承ります)

対象者

地方自治体職員、信金、商工会、地域活性化に取り組む団体の方、地域おこし協力隊 等



会議室所在地 東京都新宿区市谷八幡町8番地

アクセス 東京外口南北線・有楽町線「市ヶ谷」駅 7番出口徒歩1分
JR総武線「市ヶ谷」駅 徒歩2分

お申込みは「お名前」「ご所属」「連絡先メールアドレス」「ご希望の時間(1部・2部・1部と2部)」「懇親会への出欠」をご記入の上、件名を「2/9地方創生セミナー申込」として事務局までメールまたはFAXでお申込みください。

メール: nousonJB@keieiken.co.jp

FAX: 03-3221-7022

お申込み・お問い合わせ

株式会社NTTデータ経営研究所内
「農山漁村活性化支援人材バンク」事務局

TEL

03-5213-4091 (受付時間 9:30～18:00)

FAX

03-3221-7022

E-mail

nousonJB@keieiken.co.jp

<http://www.keieiken.co.jp/nousonjb>

第一部

《「農」をベースとした移住・定住の促進セミナー 主催:JOIN》

◇調査レポート:「農」をベースとした移住・就農の現状と課題 (一社)移住・交流推進機構(JOIN) 石川 智康

「地方創生」という社会情勢の中でクローズアップされている都市から農村への「移住」。最近増加傾向にある「移住者」たちの力を地域の農業の活性化に生かすにはどうしたらよいのか? 昨年実施した全国調査のデータからひもときます。

◇講演:「地方創生の流れの中で:農山村地域の課題(仮)」 首都大学東京准教授 山下 祐介

限界集落問題や震災復興、そして地域創生の分野で「真実はなにか」ということを追究。昨年、過疎化のすすむある町の総合戦略策定にかかわった経験もふまえ、農山村地域に共通の課題や、その解決方法などを考えます。

◇農業と連携した移住推進施策と移住就農者の意識 (事例報告とディスカッション)

・特産品を活かした「自立できる新規就農の推進」: 岡山県(調整中)

・山梨県北杜市で移住就農~仲間と農事組合法人を設立した事例:(農)北杜ベジファーム、(一社)里くら、井上農場 井上能孝

第二部

《農山漁村活性化 講演会 & ご相談会 主催:農山漁村活性化支援人材バンク》

【基調講演】地方創生に必要な専門家人材とは 人材バンクコーディネーター 福井 隆

地域の課題に向き合い、本質的な課題解決と価値創出を目指すための考え方と、それをサポートする専門家人材の活用方法についてお話しします。

【基調報告】マッチング事例報告 「千葉県館山市発 農産加工事業企画支援」 (株)ただいま 佐藤 翼

地域の農産物を加工すれば利益が得られる、農の6次産業化でよくいわれるこの仮説が本当に正しいのか検証し、地域の事業計画を策定する支援の様子をご紹介します。

ポイントは「誰が喜ぶ加工品なのか?」販売ターゲットが明確でない商品開発では地域は利益を得られません。

【人材バンク講演】

首都圏をブランディングツールとして使いこなす くんじゅうぼう未来ブランド研究所 代表 二村 宏志

地方に不足しているのは、マーケティング技術。首都圏をブランディングツールとして活用する事例を通して、地方が持つべき組織像をお見せします。その先に、地域ブランドの格立があります。

「おもろいやんが人を呼ぶ!」カタシモワイナリーの取組み 藍青アグリビジネス塾 代表 川合 和明

ブドウとワインの街、大阪府柏原市。ぶどう畑のある風景は柏原の誇り、この景観と街並を守ることがカタシモワインの使命。「おもろないこと」は大概失敗する。ひらめき重視、ヒューマンな部分でお客様や街の人たちと響きあう、買いに来させる仕掛けづくりが柏原に人を呼びこむ。地域活性化の一つの形を紹介します。

食と農の連携への新たな視座—「宮城のこせがれ」たちから学ぶ— 中央農業総合研究センター 主任研究員 飯坂 正弘

宮地勇輔氏らによる「農家のこせがれネットワーク」に感化され、宮城県へUターンした青年が、実家の養鶏業を学ぶなかで地元の仲間を見つけ、異業種連携、生消連携、学生との連携、宮城県の食と農に携わる「こせがれ」たちをネットワークしてきた過程と次の展開を報告します。

ここにあるじゃないか農山漁村の地域資源 観光ビジネス総研 代表 刀根 浩志

外国人観光客が増加し地方への関心も高まっている中、農山漁村の風景と古民家、農林漁業や手仕事などの技と知恵、食文化などをアクティビティとして整備し、心温まるおもてなしを提供する。あくまでも農村振興をビジネスの視点で捉え、持続可能な日本型DMO成功のポイントを解説します。

増やせ!「農業女子」 農と食女性協会 代表 伊藤 淳子

農林水産省の農業女子プロジェクトに参加している20代から50代の女性たちは、選択的都会離脱に成功して、新しいライフスタイルを確立しているといえる。「女性の生き方」として見直されている農山漁村の暮らしや魅力について、女性視点で紹介いたします。

【特別講演】

『田舎カ~ヒト・夢・カネが集まる5つの法則』 食総合プロデューサー 金丸 弘美

活力あるところは、これまでの農業、観光、商品と、とかくばらばらだったものを、全体でとらえて、お客さんが喜んで食べてもらえる、来て楽しめる、泊まって楽しめる、見て安らぐ、など、総合的に考え、形にしています。各地の具体的事例を紹介します。